

演題名	肉用牛育成農場における破傷風の続発事例		
発表者氏名	竹谷 祐彰	所属	伊那家畜保健衛生所
<p>症例 1：平成 22 年 6 月 16 日、管内肉用牛育成農場（飼養頭数 110 頭）で 1 頭の肉用育成牛（交雑種、去勢、3 か月齢）が後弓反張等の神経症状を呈したため、病性鑑定を実施。当該牛はチアミン、脂溶性ビタミン検査を含めた血液生化学的検査で異常値を認めず。解剖所見でも著変なし。稟告から 20 日前に除角及びゴムリングによる去勢を実施。陰囊去勢部位に小化膿巣を認めたため、同部位の細菌検査を実施。グラム陽性ラケット状の芽胞菌を認め、破傷風と診断。</p> <p>症例 2：同年 6 月 21 日、同農場のロボット様歩行を呈し死亡した肉用育成牛（交雑種、去勢、4 か月齢）の病性鑑定を実施。稟告から症例 1 と同日に除角及び去勢を実施。陰囊去勢部位の細菌検査から破傷風菌を分離し、破傷風と診断。</p> <p>立入調査で除角及び去勢時の術野及び器具の消毒が不十分であることが判明。術野、器具及び術者のヨード剤による適切な消毒を実施するとともに、発生牛房の清掃、消毒及び石灰乳塗布を指導。以後、当該農場での本症の発生は認められていない。</p>			